

会長短信

政 志 郎

会員の皆様にはお変わりございませんか。

翔友会関東支部の斉藤良和(昭和39年卒)さんが体調を崩されて、治療に専念したいご意向があり、私と斉藤さんが、京都、東京で面談し、支部長としての翔友会に対する情熱は並々ならぬものを感じながら、体力的限界であり、了解した上で、12月8日関東支部有志ご集合いただき、経緯説明し、新会長に樺島紳一郎(昭和40年卒)さんが満場一致で選任されました。

関東支部は静岡県以北で会員数61人(全会員の25%)です。新会長の下、全国大会応援、観桜会等意見交換の場を作り、情報の共有化から活動を始動して頂いております。関東支部の皆様のご協力なくして翔友会は成り立ちません。今後は支部長と密接に情報交換をして、翔友会の活動を活性化してゆきます。関東支部会員の皆様のご協力重ねてお願い致します。

75周年記念事業

2月17日翔友会総会は年次委員の熱心な働き掛けで例年になく多くの先輩諸氏のご出席で盛会裏に開催され、新庄委員長から記念事業の説明がなされて、承認を頂きました。愈々本格的活動を開始致します。

山口部長先生が、副学長兼学生支援センター長の西村卓先生や水野課長との新機体購入について、部員の要望、現状説明等の面談折衝をする場を作って頂きました。現有機体は性能的に一昔前のものである点をご理解頂きましたが、多額の支援には目玉となる訴求効果を明確にする必要性を、副学長から学校も考えるが航空部としても良いアイデアで訴えて欲しいと、2回目の折衝を終えました。

同志社スポーツユニオン各部OB会長会で学校のスポーツ支援のあり方として、経常予算的な支援だけではなく、中長期経営計画の中に、大学事務局が立案するものと別枠の支援予算を立案してもらうべく、会長会で議論し、スポーツユニオンから圧力をかけることを促進させて行こうと思っております。

75周年記念事業は自助努力で、実力に見合う事業であるべきであり、大学・学生・翔友会が一体となって促進を図ることあります。会員の皆様のご理解と絶大なご支援をお願い致します。

具体的には、幹事会・年次委員の方々との情報の共有化と目標達成に向かい行動あるのみです。会員の皆様には『同志社大学体育会航空部創立75周年企画書』を熟読頂き、その趣旨ご理解と、ご支援、ご鞭撻賜りたく宜しくお願い致します。

同志社大学は、この4月に「スポーツ健康科学部」、「生命医科学部」を開設し、建学の精神に向かい一歩ずつ革新へのビジョンを実現しつつあります。我々翔友会も75周年ビジョンに向かい、守るべき伝統と革新を続けたいと思います。

部長短信

山口博司

以前に、山登りに関しての記事を書いたことがあります。そこにある山に登ることへの冒険心、また登った後の達成感と充実感はそれを成し遂げた人しか分からないものです。また、日々の色々な仕事、研究、学業、みんなこれに通じる所があるものです。やはり、そこにある目標に向かい冒険心を持って、チャレンジしていかねばならないと思います。そして、何よりも大事なことは勇気であると思います。

研究指導、これは私の職業であります、学生に「勇気を出して、やってみな」と言います。こ

の時は、いつも私自身にも同じことを言っているものです。

航空部においても、操縦の技量は、才能も十分に影響するものですが、努力と情熱でかならず、トップレベルまで到達する。あと、他に勝つとなるときには、必ず、他に勝る物を勝ち取るに必要なものへ向かう冒険心とそれを可能とする勇気を持つことであると思います。

今年も、部員各々の更なる健闘を期待いたします。また、何よりも諸兄の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



監督短信

森 川 泰

今年度の同志社航空部の活動も全国大会の終了とともに無事に終了しました。今年は全国大会に昨年に引き続き出場ということで、昨年の経験を踏まえ可能な限りの準備をして大会に臨んだはずでした。翔友会から今年もご支援を頂き、3年生の重田君、岩井君の2名にオーストラリアでソアリングの経験を積ませました。学生達は色々な機材の用意、地理や気象条件に関する情報の収集などの準備をして行きました。しかしながら、結果は私とっても選手達とっても納得出来る結果ではありませんでした。これは同志社航空部の現役学生、OBの皆さんも同じ思いでしょう。選手は最大限の努力をし、良く頑張ってくれました。結果に結び付かなかったのは、監督である私の指導者としての力不足のせいだと反省するとともに大変悔しく思っています。ただ、4年生の前田君は個人で16位と去年より順位を上げてくれましたし、前田君と重田君の2選手が得点し岩井君も得点にはなりませんでした。旋回点を回って来ました。選手を含む部員全員の頑張りにより、将来の優勝へ繋がる階段を一段上がることが出来たとは言えるのではないのでしょうか。

今年度一年の同志社航空部の活動を振り返ってみると同立戦で負けるなど結果は伴いませんでしたが、クラブの活動としては徐々に盛り上がってきていると感じています。今年度も多くの1年生を迎えることが出来、部員数も30名にもなり、多くの学生が積極的にクラブ活動をしてきています。個人の飛行回数も伸びて来て、全体のレベルも上がって来ています。今後もこの調子で頑張り、自家用操縦士になる学生が増えて行ってくれるものと期待しています。また、OBの方のご協力もクラブ活動の活性化に大きく影響を与えています。

75周年に向けて学生との交流も活発になり、合宿や全国大会などにも多くの方が応援に来て下さり、学生の大きな励みになっています。そして、合宿などで献身的に指導をして貰っている玉井コーチを初めとする教官の皆さんには感謝しております。

これからは75周年という節目の年に向けて現役学生とOBがこれまで以上に一丸となって同志社航空部を盛り上げて行かなければなりません。その為にはどうしたらいいのでしょうか。一つのキーワードはチームワークだと思います。同志社航空部の人数が増えて来て嬉しいのですが、その反面、クラブが纏まって行くのは難しくなって来ています。上級生は下級生の面倒を見、下級生は上級生を助け、また同級生同士も助け合い、常に共通意識を持ち現役部員全員が一つに纏まって行って下さい。グライダーは一人で飛ぶものですが、そのフライトを実現するにはみんなの協力が必要なスポーツなのです。そして現役学生からOBになったらそれで終わりではなく、今度はOBとして後輩達の面倒を見てやり、同志社航空部がより良くなる方向に導いてやって欲しいと思います。また、学連も今後数年で大きく変わって行こうとしている様で、これまでの様に学連に大きく頼って行くことは難しくなりそうです。そういう意味でもますますOBの方達の支援が重要になって来ますので、どうぞ宜しくお願い致します。

来年の全国大会までの同志社航空部の一年がまた始まります。ここまで大きく育った航空部を衰退させることなく更に発展させて行きましょう。そして、活動の過程を大切にクラブ活動の内容を充実したものにし、来年こそは目に見える形で結果を残して行きましょう。